

# 老健にいがた

第43号

2018. 2 Vol. 43



桃李園



千歳園



関川愛広苑



第二にいがた園

## 目次

巻頭言	1	市民公開セミナー	12
協会だより	2	新潟県介護老人保健施設大会	13~14
特集：グリーフケア	3 ~ 5	こんなことやってます!!~会員施設の取り組み~	15~18
平成29年度 研修会報告	6 ~ 11	みんなの広場	19

# 卷頭言

## 人生100年時代へ

新潟県介護老人保健施設協会 副会長

ケアポートすなやま 松田 由紀夫



日本は少子高齢化が進み、最近の国勢調査では高齢化率は26.9%となった。2016年の日本人の平均寿命は女性が87.14歳、男性が80.98歳で、2015年と比較すると、女性は0.15歳、男性は0.23歳伸びた。平均寿命は健康、栄養、医療、衛生、テクノロジー、所得、健康意識の向上など多数の要因で伸びると考えられている。過去200年間にわたり寿命は10年で2歳以上のペースで伸び続けてきた。今後も人々の寿命は伸び続け、今20歳の人は100歳以上、45歳の人は95歳以上、60歳の人は90歳以上まで生きる確率が50%以上ある。2007年に日本で生まれた子供たちの半分は107歳より長く生きるという予測もある。厚労省は健康な日常生活が送れる期間「健康寿命」も算出しているが、平均寿命との差は10年～12年となっている。平均寿命の延伸をきたす要因は不健康な期間の短縮ももたらしており、長寿化社会というと虚弱な老人が長く生きるというイメージを持ちやすいが、健康で元気な、若々しく生きる高齢者が増えることでもある。

来る人生100年時代はこれまでの教育を20年受けて就職、60歳代で退職という人生スタイルが難しくなる。退職後の40年近い年月の生活費をどう確保するかは重要な問題であり、かつ有り余る自由な時間をどのように使うか、家族や友人関係、精神の健康、幸福なども問題である。よって高齢者だけでなく若者達の生活の仕方、学習や働き方にも変化が求められる。少子高齢化により医療保険制度や年金制度は破綻が確実で、人工頭脳の進歩やIOTによって社会や労働環境は変化し、現在ある多くの職業は失われそうだ。時代に合った知恵や知識、スキルを学習し続けなければ働くことも出来ず、貧困と後悔の老後を迎えることになる。

外国の調査によれば、死を目前にした人々の大きな後悔は「ほかの人が望む人生ではなく自分に誠実な人生を生きる勇気を持てばよかった」、「仕事についての後悔」、「他者との関係」、「友達と連絡を取り続ければよかった」の順であるという。長い人生を幸せで生産的なものにする為には金銭的要素と非金銭的要素、経済的要素と心理的要素のバランスをとることが必要であり、目に見える金銭的資産だけでなく、目に見えない資産である生産性資産（仕事で生産性を高めて成功し所得を増やすのに役立つ）、活力資産（肉体的、精神的な健康と幸福、家族との良好な関係など）、変身資産（大きな変化を経験し、多くの変身を遂げる能力、自分自身をよくしていることなど）を増やすことが重要だという。また、幸福には①幸福感（たのしむ）、②達成感（目標を達成する）、③存在意義（他者の役に立つ）、④育成（伝える）の四つの要素があり、これらを考えながら行動し働くこと、自らの時間をコントロールし生活することが人生を成功と幸福に導く方法だとも言われている。



## 新理事紹介

常盤園 理事長 佐野 英孝



この度平成29年4月1日より新理事に就任させていただきました佐野英孝と申します。

新潟市南区の精神科の白根緑ヶ丘病院の院長に平成15年より就任し、平成23年より併設の介護老人保健施設の常盤園の理事長を務めさせていただいております。

病院、施設の周囲は田んぼや野菜や果樹園の畑が広がり中ノ口川という信濃川の分流が流れしており自然が大変豊かな環境です。

平成30年度は、診療報酬と介護報酬の同時改定の年です。物価、人件費が上昇する中で診療報酬、介護報酬がどのように改定されるかが注目されます。

経営者として入所の皆様の健康と安全を第一に考えて、職員の技術向上、設備の改善に努力していくことが大切であると感じております。

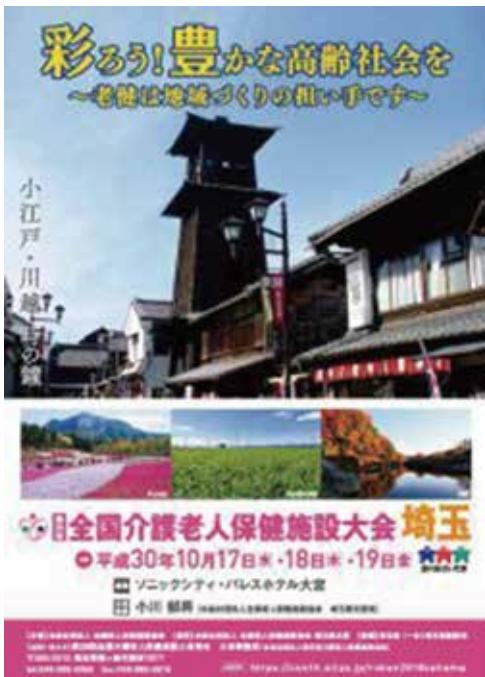
今後もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

### 第29回全国老人保健施設大会のお知らせ

平成30年10月17日(水)～19日(金)まで

埼玉県さいたま市ソニックスティ・パレスホテル大宮で開催いたします。

関東・甲信越ブロックでの大会になりますので、大勢の皆様の発表やご参加をお願いいたします。



### 新潟県の最低賃金について

平成29年10月1日より、新潟県の最低賃金は従来の時間額より25円引き上げられ、778円になりました。



# グリーフケア

## ～ご利用者ご家族とスタッフへのグリーフケアについて～

昨今、グリーフケアについて取り上げられる場面が増えてきました。そこで新潟市にある「グリーフケアこもれびのなか」代表 西條和佳子氏にインタビュー形式で質問させていただきました。

### 西條和佳子氏 プロフィール

一般社団法人 日本グリーフケア協会認定特級アドバイザー  
1963年生まれ 新潟市出身 新潟大学経済学部卒業  
2009年 実母をがんで看取ったことを契機にグリーフケア協会の講習を受け始め、  
2012年に特級資格を取得  
2013年 遺族の為のピアカウンセリング（通称：わかちあいサロン）と個別面談を  
主としてグリーフケアオフィス「こもれびのなか」を設立  
2016年 国立精神・神経医療研修センター「複雑性悲嘆の認知行動療法研修」修了  
新潟県内で働く女性の異業種交流会  
「特定非営利活動法人ワーキングウィメンズアソシエーション（WWA）」理事他



### 「こもれびのなか」のご提供内容の紹介

- ・大切な方を亡くされた方のために（個別のご相談・わかちあいサロン・お楽しみサロン・男性限定サロン・未成年の子どもの為のグリーフケア）
- ・ご家族が闘病中の方へ（個別のご相談）
- ・悲しみの渦中にある方と接するお仕事の方へ（グリーフケアの基礎知識）

詳しくは「こもれびのなか」のホームページをご確認願います。

### ① グリーフとは？グリーフケアとは？「ターミナルケア」との違いは何でしょうか？

グリーフは家族をはじめとする大切な存在の喪失によって生じる悲しみや辛さ、苦しさなど様々な感情の総称です。これらの感情は程度の差はあっても誰にでも起こりうるもので。ただ、怪我をして血が出ているときに絆創膏や包帯で手当てが必要なように、あまりにも辛さが大きく、ひとりでは対処が難しい場合に必要な手助けをすることをグリーフケアと言います。

それに対して、ターミナルケアはがんなどの疾病により心身の苦しみが大きかったり、余命が間もないご利用者に対して提供されるもので、ケアの対象者が家族や友人ではなくご利用者本人であること、その方が存命中に提供されるものであることがグリーフケアとの違いです。

### ② グリーフケア・特級アドバイザーの資格を取得されたきっかけは何でしょうか？

きっかけは8年前に母ががんで亡くなったことです。病気の進行が非常に早かったため、母の闘病中から辛い思いが募ったことと、母の他界後に独り暮らしとなった父を娘の私の力では、どうやっても元気にしてあげられなかつたことが資格取得を目指した理由です。

③ ターミナル期において、自ら動くこともできず、意識もうろう状態のご利用者にどのような言葉かけをしたらよいでしょうか？

自分で動けず、意識もはっきりしないのは身体の機能的に仕方のないことだと思います。でも、仮にそのような状態だったとしても、その方が尊厳のある個人として生きておられることには変わりがないと思います。

ですので、たとえ意識がもうろうとされていたとしても、お元気なときと同じように、朝の挨拶から始まり、「今日はこのような日ですよ」と、普通に話しかけて差し上げれば宜しいかと思います。

④ ターミナル期において、ご家族への言葉かけについてどのような点を注意したらよいでしょうか？

私自身がそうでしたが、ターミナル期になると家族は“なぜこのようなことになってしまったのだろう”という絶望感や、ご利用者である自分の家族に“何もしてあげられない”という無念さにさいなまれていることが多いです。

また、“このような苦しい状況に陥るのは初めて”というご家族も少なくないと思います。そのような場合には、ご利用者もご家族も誰に頼っていいのか分からず、道に迷ったような心細さや、誰にも言えない苦しさを抱えていることが多いのではないかと思います。

このようなご家族に対しては、口に出せない思いもあるのではないかと思いやり、「何かお悩みのことはないですか？」など、それとなく気持ちを引き出すような言葉かけをしていただけたら有り難く思います。

⑤ 死別直後、悲嘆にくれているご家族に、どのようなお声をかけたらよいのでしょうか？

避けたい言葉や言動について教えてください。

死別後、悲嘆にくれている家族に対する声かけで、最も避けるべきは安易な同情や励まし、取り繕いです。

ご利用者の存命中から家族と関わり、一緒にご本人のケアに当たる“チームのような関係”を作っていた場合には、同情も励ましもすんなりと相手の心に伝わりますが、様々な事情から、そこまでの関わりが出来ない場合もあるでしょう。

そのような場合には、ご家族を慰めたり、励ますよりも、“ご利用者が亡くなられて悲しい”とか“残念だ”といった、職員さんご自身の思いを伝えていただいた方が宜しいと思います。

また、死別後の家族は、相手が心から言葉を発しているかを敏感に感じ取りますので、もしなんと言って言葉をかけたら良いかわからなければ、そのまま正直に「なんと申し上げたら良いかわかりません」と言って、ご家族のそばに寄り添っていただくだけで十分ではないかと思います。

そして、もしご家族から、亡くなられたご利用者に関わることで質問があった場合は、小さなことでも丁寧に答える、きちんと調べてから答えるなど、誠意を持って対応いただくことが大変重要ではないかと思います。

⑥ 施設で看取りたいと思われる理由は？在宅が困難だからだけでしょうか？

施設で看取って良かった点などの、お話を聞かれたことがあるでしょうか？

私は介護の専門職ではありませんので、あくまで推測になりますが、ご本人にとって在宅よりも施設の方が良いとご家族がお考えになるからではないでしょうか。また、ご本人が施設を希望されている場合もあるのではないかでしょうか。

ご高齢のお父様を施設で看取られた方がいらっしゃいましたが、この方は「施設の職員さんとチームを組んで父の世話が出来て良かった」と言っておられました。

⑦ 死別後に、「こうして欲しかった。」などの具体的な要望を聞かれたことがあると思われますが、どのような点でしょうか？

お一人お一人状況が違われる所以、一概にこうだという話はありませんが、病気で看取られた場合には、治療の手立てがなくなったあと「お医者さんに見離されたような気持ちがして辛かった」という方が時々いらっしゃいます。

治療の出来る出来ないに関わらず、ご利用者の命のある間は一緒に悩み、考えててくれる、そういう対応を求めておられる方が多いように思います。

⑧ 死別後、落ち着かれた頃に挨拶に来られるご家族がいらっしゃいます。その際に、ご様子を伺いたいのですが、言葉かけを教えてください。

ご家族が自ら訪ねておいでになるということは、ご家族に、皆さんとお話をしたい気持ちがあるのだと思います。このような場合は、ごく自然に「いかがお過ごでしたか？」と声をかけて差し上げれば宜しいかと思います。

⑨ 死別後、自身のケアや処置を後悔しているスタッフがいます。そういった場合、どのような言葉や対応をしてあげるとよいでしょうか？

「何か悩んでいるように見えるけど大丈夫？」「もし辛い思いや悩みがあるようなら一緒に考えるから言ってね」と声をかけて差し上げたら宜しいのではないでしょうか。このような場合の言葉かけや対応は、ご利用者の家族に対する場合と変わらないように思います。

また、今後も自信を持って仕事に携わっていただけるよう、“できなかったこと”ではなく“できたこと”を認めて差し上げることが大切ではないかと思います。

<インタビューの感想>

西條和佳子氏のお話しさは、たいへん参考になりました。介護老人保健施設は、在宅復帰を担う重要な役割がありますが、その一方で施設での看取りが増えつつあることも現実です。施設スタッフが主体的にご本人と関わり、ご家族とも密な連携が必要となります。日々の変化をきちんとお伝えし、意思決定のプロセスを共有することで、ご家族の職員に対する信頼感も強まります。「この人たちならば、最期までお任せできる」と思っていただけるような、寄り添うケアを行っていきたいものです。

# 平成29年度 関東甲信越ブロック支援相談員合同研修会

今回の研修テーマは、「『出会いを糧に』～柔軟な支援相談員になるために～」と題して、2日間にわたり関東甲信越地区の老健施設の支援相談員1都7県78名の参加で研修会が行われました。

日 時：平成29年9月2日(土)  
9月3日(日)  
会 場：ロイヤル胎内パークホテル  
参加施設：54施設  
参加人数：78名

## 1日目：グループワーク

1. 苦情対応 2. 困難事例支援（虐待・未払い・親族不在ケース等） 3. ベッドコントロール・在宅支援（在宅強化型の取り組み） 4. 施設内他職種連携（業務分担等） 5. 今後の老健の役割（特養化・看取り・他施設との連携住み分け）の希望グループに分かれ、自己紹介や名刺交換をしてお茶菓子等を囲みながら和やかな雰囲気で行われ、その後各グループより発表が行われました。



また、夕食会後には各県からの参加者が持ち寄った名産品を肴に、日頃の悩みや問題を話し合い宴会が盛り上りました。

## 2日目：講演「地域に求められる支援相談員」

講師に新潟県介護支援専門員協会会长 佐々木勝則 氏をお迎えし、介護保険制度の現状と福祉ビジョン・介護老人保健施設の役割・サービス利用者の現状と利用者と家族の変化・老人保健施設支援相談員として何を大切にしてソーシャルワーク実践を行っていくか（人格尊重と人権保障、自己決定とかかわりの尊重、生活者として地域で暮らすこと、地域づくり）について講演をいただきました。

講演後グループワークを行い3つのグループより発表が行われ、最後にアドバイザーとして長野県老人保健施設協議会顧問 若月健一氏と埼玉県介護老人保健施設協会理事 平川汀子氏より「同じ老健でも地域性やグループのバックアップ体制によって課題や強み、支援相談員の悩みは大きく異なることなどを学べた充実した研修会であった。」「より様々な地域の支援相談員の方と、グループワークや交流会を通じて率直に意見交換ができたのではないしょうか。」と講評をいただきました。



### ～参加者の声～

- ・「県内の参加者」 日頃の悩み問題等支援相談員間での情報共有の場として大変良かった。
- ・「県外の参加者」 他県の様々な方と交流できる機会。事業所では一人でしている仕事なので、悩みや不安、今後の取り組みなど相談ができるとてもよい。

# ひやり・はつと事故防止対応研修会



ひやり・はっと事故防止対応研修会として、前年度に続き、文京学院大学 保健医療技術学部 作業療法学科の大橋幸子氏をお招きして、午前は講義、午後からはグループワークを中心に行われました。

基础架构S-1	
模块	功能描述
基础架构S-1子模块A	功能A-1 功能A-2 功能A-3 功能A-4
基础架构S-1子模块B	功能B-1 功能B-2 功能B-3 功能B-4
基础架构S-1子模块C	功能C-1 功能C-2 功能C-3 功能C-4
基础架构S-1子模块D	功能D-1 功能D-2 功能D-3 功能D-4
基础架构S-1子模块E	功能E-1 功能E-2 功能E-3 功能E-4
基础架构S-1子模块F	功能F-1 功能F-2 功能F-3 功能F-4
基础架构S-1子模块G	功能G-1 功能G-2 功能G-3 功能G-4
基础架构S-1子模块H	功能H-1 功能H-2 功能H-3 功能H-4
基础架构S-1子模块I	功能I-1 功能I-2 功能I-3 功能I-4
基础架构S-1子模块J	功能J-1 功能J-2 功能J-3 功能J-4
基础架构S-1子模块K	功能K-1 功能K-2 功能K-3 功能K-4
基础架构S-1子模块L	功能L-1 功能L-2 功能L-3 功能L-4
基础架构S-1子模块M	功能M-1 功能M-2 功能M-3 功能M-4
基础架构S-1子模块N	功能N-1 功能N-2 功能N-3 功能N-4
基础架构S-1子模块O	功能O-1 功能O-2 功能O-3 功能O-4
基础架构S-1子模块P	功能P-1 功能P-2 功能P-3 功能P-4
基础架构S-1子模块Q	功能Q-1 功能Q-2 功能Q-3 功能Q-4
基础架构S-1子模块R	功能R-1 功能R-2 功能R-3 功能R-4
基础架构S-1子模块S	功能S-1 功能S-2 功能S-3 功能S-4
基础架构S-1子模块T	功能T-1 功能T-2 功能T-3 功能T-4
基础架构S-1子模块U	功能U-1 功能U-2 功能U-3 功能U-4
基础架构S-1子模块V	功能V-1 功能V-2 功能V-3 功能V-4
基础架构S-1子模块W	功能W-1 功能W-2 功能W-3 功能W-4
基础架构S-1子模块X	功能X-1 功能X-2 功能X-3 功能X-4
基础架构S-1子模块Y	功能Y-1 功能Y-2 功能Y-3 功能Y-4
基础架构S-1子模块Z	功能Z-1 功能Z-2 功能Z-3 功能Z-4

日 時：平成29年9月7日(木)  
会 場：アトリウム長岡  
参加施設：38施設  
参加人数：61名



～参加者の声～

- ・ひやり・はっとや事故報告書を書くことは嫌なことでも恥ずかしいことでもないので、簡単に記入できる書式にするのも良い案だと思った。
  - ・馴れ合いは良くないと私自身も感じること、見直すことがあった。
  - ・ひやり・はっと、事故につながる確率が上がる要因に、職員の接遇があげられることに、改めて職員の接遇意識を高めなければと思った。
  - ・グループワークを通して、他施設のひやり・はっとの周知徹底の仕方等、様々なことを学べて良かった。

# 持ち上げない介護技術研修会

## 【実践コース】

一般社団法人 ナチュラルハートフルケアネットワーク代表理事の下元佳子氏をお迎えし、「持ち上げない介護技術研修会～実践コース～」というテーマで研修が行われました。

日 時：平成29年9月26日(火)  
会 場：長岡介護福祉専門学校あゆみ  
参加施設：12施設  
参加人数：32名



スライディングシートやボード、リフトなどの福祉用具を使用した介護技術の習得と、半年先を見据えて各自の施設で現状や課題を抽出し、今後どのように取り組んでいくべきか目標を立てていくという、より実践的な研修の場となりました。

グループで実技を繰り返し行い、意見を出し合ったり、試行錯誤しながらも積極的に取り組まれていました。



### ～参加者の声～

- ・今後施設でどのように取り組んでいくか計画出来て良かった。
- ・自分の身体を守るだけでなく、利用者様のためにも持ち上げない介護は大事であることが理解出来た。
- ・技術だけでなく組織作りの考え方など学べて良かったと思う。
- ・用具を使うことによって、介助が力任せや中腰にならず腰痛予防になると感じた。
- ・目的や課題を考えながら介護技術を学べたので、施設での課題がより明確になった。

# 老健における施設ケアプラン作成の進め方研修会

「ケアマネジメントの目的、ケアプランの特徴、他職種との関わり方、ケアプラン作成の流れ」をテーマに講義、事例発表、グループワークが行われました。

ケアプランを作成するにあたり利用者の情報を収集し分析し、何が必要かを考えその人の望む生活に近づけることを目標に他職種や家族との連携を共有してみんなで作り上げていくことが重要になります。

各施設によって色々な取り組みをされており、事例が3つありましたが、改めて考えさせられる部分や共感できる部分が多く参考になったことも色々見つかったのではないかと思います。

日 時：平成29年10月18日(水)  
会 場：新潟ユニゾンプラザ  
参加施設：52施設  
参加人数：76名

## 「午前の部」

講義 「老健における施設ケアプランのあり方」

特別養護老人ホーム こころの杜 施設長

新潟県介護支援専門員協会 副会長 田中 保雄 氏

- ・施設ケアプランとは？
- ・アセスメントからプラン作成までの流れ
- ・他職種との連携の仕方
- ・モニタリングの方法 など



講師 田中氏



## 「午後の部」

事例発表

①在宅復帰事例 「自分の家へ帰ろう～残存機能を維持し在宅へ～」

やすらぎ園 介護福祉士 吉原 幸恵 氏

介護福祉士 井上 裕太朗 氏

②長期入所事例 「在宅復帰困難事例報告～認知症専門棟から」

やまぼうし 介護支援専門員 今井 恵美子 氏

③ターミナルケア事例 「老健における施設ケアプラン作成の進め方

“看取りケアプランの展開”」

越南苑 介護支援専門員 櫻井 照代 氏



### グループワークについて

事例として「在宅復帰目標」、「認知症ケア」と題し資料を元に情報を分析しながら自分だったらどういうプランを作成するか考え、同じグループの人たちと積極的な情報、意見交換が行われていました。

### ～参加者の声～

- ・普段業務として流れ作業になっているが、振り返ることができた。
- ・とても分かりやすく最後まで興味深く参考になる研修だった。
- ・他施設の取り組みを聞くことができ勉強になった。
- ・長期入所者、自分で話せない利用者のプランがマンネリ化になりがちな為、他施設との情報交換をもつとしたかった。
- ・「5安(安全・安心・安楽・安定・不安のない)4K(快適・継続・活発・活性化)のワードをいかに使っているかを認識した。他の表現で表すことが難しいが、今後は意識しながら作成していきたい。」

# 介護現場のコミュニケーション研修会

午前と午後の部に分けて開催されました。午前は株式会社インターリスク総研 岡田拓巳氏より「組織力向上研修」、午後は特定非営利活動法人アサーティブジャパン 事務局長 牛島のり子氏より「アサーティブ・コミュニケーションを学ぶ」について講義していただきました。

日 時：平成29年12月1日(金)  
 会 場：新潟ユニゾンプラザ  
 参加施設：25施設  
 参加人数：48名

## 午前の部：「組織力向上研修

### ～モチベーション・コミュニケーション力向上～

講師：株式会社インターリスク総研 岡田 拓巳 氏



ネガティブ感情を抑えてポジティブ感情を高められるようにThree Good Thingsを取り入れていくと、職場内でポジティブな会話が多くなり、意欲的になっていくことで職場のモチベーションは上がっていくとのことでした。また、指導の仕方として個人の強みや価値を伸ばしていくことで、改善を促していくという話をしていただきました。

職場のつながりを通したコミュニケーションの方策を理解するために、ソシオグラムを使用した演習を行い、“つながり”と“スキマ”的重要性、“つながり”的メリット、デメリットを理解して職場での支援と能力向上の在り方を学びました。

## 午後の部：「アサーティブ・コミュニケーションを学ぶ

### ～自分も相手も尊重する「伝え方」を実践してみよう～

講師：特定非営利活動法人アサーティブジャパン 事務局長 牛島 のり子 氏

「アサーティブ」とは日本語で「主張的」と訳されますが、要求を通すための自己主張ではなく、アサーティブなコミュニケーションとは、自分の感情と相手に誠実に向き合い、自分の要求や気持ちを率直に簡潔に伝え、自分も相手も尊重した対等な態度で向き合い、自分の言動の結果の責任を自分で負うことを意識して行うことだと講義していただきました。

コミュニケーションパターンとしては、攻撃的、受身的、作為的の3パターンに分けられるそうです。演習では、この3パターンを出さずにアサーティブコミュニケーションを活用して相手にどのように要求を伝えるか、要求されたときにどう断るのかをシチュエーションを詳細に設定して実践し、学ぶことができました。



#### ～参加者の声～

- ・コミュニケーション能力を向上する良い機会となりました。日々の介護現場・業務に活かしていきたいと思います。
- ・グループワークがあり、最後まで意欲的に参加できました。
- ・こんなコミュニケーションの仕方があったんだと思いました。学んだことをいかし、勇気を持って職員や利用者様とコミュニケーションしていきたいと思います。
- ・具体的にどのようにすれば良いかを提示してもらえたのが良かった。

# 排泄ケア研修会

生活介護研究所テクニカルアドバイザーの高橋衣吹氏を講師としてお迎えし、「排泄のケア 気持ち良い排泄ケアを目指して」と題して講義をしていただきました。

日 時：平成29年12月19日(火)  
会 場：アオーレ長岡  
参加施設：24施設  
参加人数：43名

## 〈高橋衣吹氏 プロフィール〉

生活介護研究所 テクニカルアドバイザー  
介護福祉士・社会福祉主任用資格  
福祉用具専門相談員・レクリエーション介護士2級

各施設や事業所のアドバイザー、セミナー講師、介護予防教室、  
初任者研修、福祉用具専門相談員指定講習会、  
実践者研修講師、等にて活動中



午前の講義では、基本の排泄ケアに留まらず全身の各部位の清拭や髭剃りに至るまでの実技を実践していただきました。また豊富な経験から、介護の現場の問題点「あるある」や職員教育の方法に至るまで、分かりやすく学ぶことができました。

午後の講義では、紙オムツや尿取りパットの性能や選定についての解説から、布パンツの活用の提案まであり、最後はオムツあての実技演習を中心に進められました。

受講者の皆様も、先生の軽妙な語り口により時折笑顔が見られる中、最後まで熱心に取り組まれていました。



## ～参加者の声～

- ・パットの選定、アセスメント等が学べてよかったです。
- ・排泄だけでなく、これから介護の現場で大切な部分もお話を聞けてよかったです。
- ・わかりやすい内容で、施設全体で研修していきたいです。
- ・自分が将来に入所したいと思う施設づくりができたらよいと思いました。
- ・ユーモア満載でとても勉強になりました。

# コミュニケーションスキルと人間関係

## フロー(心地よい)環境づくりと自己肯定感向上セミナー

今年度の市民公開セミナーも新潟県介護老人保健施設大会と同日の平成29年11月10日(金)に新潟ユニゾンプラザにおいて、講師に田中成子氏をお迎えして開催されました。

### 〈田中成子氏 プロフィール〉

株式会社 ひと組織研究所 代表取締役

新潟県生まれ。慶應義塾大学文学部卒業。

20代は専門学校の教員。30代から現在まで、コンサルタントとして全国の団体、企業、病院の研修を年間100～200回担当。36年間で5,400回、延べ21万人の方の研修の実績を持つ。主に、参加型手法によるセミナーを中心に、管理者のリーダーシップ・人事考課者トレーニング・コミュニケーション・コーチング・インストラクター研修を担当。通信、移動通信コールセンターのスタッフ、インストラクター研修を担当。

日本経営品質協議会認定セルフアセッサー(JQAC 01489)

日本SCT学会(文章完成法テスト)「SCT初級取扱士」

DISC認定インストラクター



人間関係とコミュニケーションにおけるフロー(心地よい)環境づくりの重要性や、会得の為の具体的な方法などをセミナー参加者同士で実践することにより、わかりやすくお話をいただきました。

シンパシー(同情、共感)コミュニケーションとエンパシー(共感する心)コミュニケーションとしては、対人での傾き方、目の合わせ方から傾聴姿勢を表すバックトラック法など、日常のなかでの実践の仕方を教えていただきました。また、コミュニケーションのタイプの違いを「解決脳」と「共感脳」の2タイプとする分類法や、行動優先の「ガッツセンター」、思考優先の「ヘッドセンター」、感情優先の「ハートセンター」の3タイプに分ける分類法などは、専門的ながらも自分や他者に当てはめてみることで身近に感じられるお話でした。参加者の皆様にとって、日常生活やそれぞれの職場の環境作りにおいて参考となる有意義なセミナーであったと思います。



### ～参加者の声～

- ・コミュニケーションについて、分かりやすく学ぶことができました。いかにストレスを溜め込まず、人間関係を良好にするか、今後に活かせる内容だったと思います。
- ・興味が湧きました。チームワークに役立つと思います。
- ・とても楽しく拝聴させていただきました。とてもためになりました。「施設でも講演をお願いしたい！」と思いました。
- ・コミュニケーションスキルも色々な考え方があり、人間関係を作る上では重要だと感じました。

# 平成29年度 新潟県介護老人保健施設大会

平成29年11月10日(金)新潟ユニゾンプラザにおいて「新潟県介護老人保健施設大会」が69施設から329名のご参加をいただき開催されました。

5会場(口演4会場・ポスター1会場)にて口演発表56題、ポスター発表12題が行われました。

当日は好天にも恵まれて盛況の中、お目当ての発表を目指して会場を移動する参加者の姿に、熱意を感じました。

## 開会式



新潟県社会福祉保健部  
副部長 藤田 伸一様



新潟県医師会  
副会長 小池 哲雄様



新潟県老人福祉施設協議会  
会長 高橋 是司様

## 永年勤続表彰

当協会では本年度より、現在勤務している職員で職務年数が15年以上の方を対象として表彰することといたしました。会員施設より推薦された人数は、32施設 507名となっております。全推薦者の中から代表して、「てらどまり」の渡辺貴幸事務長兼支援相談員に、馬場会長より表彰状と記念品を授与いたしました。



## 大会の様子



### ～参加者の声～

- ・他施設での取り組みを知ることが出来ました。自分の施設でもできることがあったので実践したいと思います。
- ・他分野、多岐にわたり専門性があり、今後のケアとして活かせる内容でした。
- ・問題意識として共感できる内容が多く興味深かったです、その先を知りたいと感じる内容が多くありました。
- ・漫然と日々の業務を行っていた自分に対し、良い刺激をいただきました。

# ～学術奨励賞演題～

演題	施設名	発表者
転倒・転落防止機器使用の適正評価について	いわむろの里	小林智彦
自分史	さくら苑	大関勇人
お茶飲まねかね	しんあい園	渡邊絵里香
「ちょっと待って！」言葉ひとつで何か変わる	晴和会田上園	高山博人
トイレでスッキリ	桃李園	渡邊悟
食事が楽しみ	やまぼうし	佐藤大地

(施設五十音順・敬称略)



学術奨励賞を受賞された皆さんです

学術奨励賞の選考基準と各会場の座長の評価に基づき、学術研修会担当理事が選考して学術奨励賞を決定いたしました。

各会場から1題、参加者最多投票1題の計6題選ばれ、受賞者は平成30年度通常総会で表彰されます。

## ～受賞者の声～

受賞者を代表して「さくら苑」大関勇人様(写真一番右)に受賞した感想等をインタビューさせていただきました。

### Q 受賞した感想

A 会場にいた皆様からの投票で選ばれたということがなにより嬉しいと感じました。

### Q 受賞を誰に伝えたい？

A 研究班メンバーや、協力していただいた職員や上司。また、対象ご利用者やご家族には感謝を伝えたいです。

### Q 研究発表においてアピールしたい点

A ご利用者の過去の思い出や、姿を知ることで、その方を今までと違った目線で見ることができるということです。

### Q 苦労した点

A ご利用者、ご家族への聞き取り時間の確保やスケジュールの調整には苦労しました。

## 歌は世につれ、世は歌につれる

清流苑 介護福祉士  
高橋 智明

日常は日々変化し、そして速いスピードで時代が進んでいますが、私たちの仕事は急いで時代についていくものではありません。往年の名曲のように利用者に合わせ一緒に歩んでいくものだと思います。

今年もある企業様のご厚意で新潟県出身の演歌歌手、葉月みなみさんが慰間に来てくださいました。馴染みのある演歌や昭和歌謡をメドレー入れて23曲もしっとりと歌っていただきました。利用者の中には感涙する方もいますし、歌いながら一人ひとりに握手して回る優しさには職員も感動したり聞き惚れてしまう場面もたくさんありました。

私たち職員が同じように歌っても歌の魅力で人に気持ちを伝えたり感動させたりするのは難しいと思います。私が介護業界に入った時、歌といえばまだ軍歌や童謡を好む方が多く、知らない歌ばかりでついていけないことが多かったのですが、明治生まれから大正そして昭和へと利用者

の方たちが変わっていく中で歌い継ぐ形も大きく変わってきたと感じます。今はすっかり昭和歌謡が主流のようで氷川きよしファンの方もいらっしゃいます。

今回のようにボランティアや地域の方たちの協力なくしては実現できない夢を叶えていただき大変感謝しております。

そして私たちも利用者の時代に合わせ楽しんでいただけるよう暗中模索しながら頑張っていきたいと思います。



## 特別な1日をみんなでお祝い!!

関川愛広苑 理学療法士  
小田 理佳子

関川愛広苑では誕生日の朝からお祝いが始まります。朝からご利用者様の席にお祝いのメッセージを置きます。これで職員や周囲のご利用者様にも誕生日がわかり、「いくつになりなした

ね?何年生まれだね?」などの言葉かけが自然と生まれています。昼食時には職員が利用者様全体に誕生者のお知らせをして、歌を唄ったり、インタビューしています。そして月1回、夕食時に誕生会を開催しています。ご家族様もお誘いし、一緒にお祝いをしています。そして、当苑の思い出の写真をアルバムにしてプレゼントします。さまざまな行事や日常の写真を振り返り、ご家族様や周囲のご利用者様と会話に花が咲いています。これからも、皆さまの笑顔ある生活に寄り添い、写真を増やしていくと思います。



## みんなで楽しく健康に

高田の郷  
理学療法士 長谷川由希子、石田 凌  
作業療法士 高橋 智美

当施設は「老いることが輝く社会に」のテーマでチャレンジをしてきました。平成24年から地域と交流を図りたいと思い、町内集会所を使って各職種から高齢者へ講座を行っています。その中でリハビリは楽しく体を動かすことが担当です。数年前より地域に出ようということでサロンへ理学療法士を中心に参加をしています。自宅で行える運動、疼痛予防、姿勢など、その中でも膝の痛みについての悩みが多く聞かれました。「同じ内容でも良いから継続してほしい」「レクリエーションの前の準備運動でやってみます」。



今年は地域からサロンで自分達でもできる運動、楽しく続けられる運動はないかと声をかけて頂き、サロンをもっと良くしたいという姿勢が伺えました。

回数が少しずつ増えてきており、職員の顔を覚えてくれました。運動の機会を増やし、みんなで楽しく健康になろうと取り組まれており、自分たちも協力したいという気持ちが強くなっています。もっとたくさんの交流を図りながら、地域に貢献できればと思います。

## 『リハビリに励んでいます!』

第二にいがた園 介護主任  
福山 忠保

当園は平成9年10月1日に「とやの中央病院グループ」の6番目の施設として開園し、今年で20年を迎えました。

当法人は利用者様・御家族様のさまざまな要望に応えるべく、特養・老健・ケアハウス・ショートステイなどの施設設備をしてまいりました。

今後も職員の更なる資質の向上を図り、施設サービスの充実を図っていきたいと思います。今後も県老健協会、並びに加盟施設の皆様の御指導を宜しくお願ひ申し上げます。



## 『千歳まつり♪～誤嚥性肺炎予防講習会～』

千歳園 言語聴覚士  
入倉 奈央子

当施設は新潟中央病院に併設しており、遠くに日本海、眼下に県庁の森と日本一の大河信濃川を望みます。入所、通所リハ、訪問リハを行っており安全安心をモットーに毎日のケアを提供する在宅強化型施設です。

当施設では毎年「千歳まつり」を開催しています。今年は小・中・大学生によるよさこい総踊り、神龍会の方々による万代太鼓、綿あめやかき氷の屋台コーナー等の出し物を行い、利用者様や来園された方々、職員共々大いに盛り上りました。また、今年はまつりの一環として、在宅支援に関して地域の方々に向けた「誤嚥性肺炎予防講習会～食べられるお口作りと食事支援について～」の講習会を



開催しました。誤嚥性肺炎の兆候や誤嚥を予防するための介助法の実技、自宅でできる口腔リハビリ、口腔ケアの重要性、介護食の試食など盛りだくさんな内容でした。私たちも参加していただいた方と一緒に学ぶ良い機会となりました。今後も、このような地域一体となった行事や、自宅で安心して高齢者が暮らせるような在宅支援につながる取り組みを続けていきたいと考えております。

## 手作りシュシュで社会貢献

てらどまり  
作業療法士 菊入 桂子  
言語聴覚士 北樹里



当施設では、ご利用者が人に必要とされる活動を通して、自信や充実感・喜びを持てるような参加の支援を心がけています。また、家族や地域住民との交流も大切にしており、平成26年3月から正面玄関にて手工芸作品の販売店『おひさま』を無人で開店しています。材料は地域の方やご利用者が不要になった着物や古着を寄付していただき、リサイクルして新たな作品に仕上げます。全てご利用者の手作り！長年の経験を活かして色合いや使い勝手も考えた、オリジナルの一品が

出来上がります。当初は雑巾とシュシュのみの販売でしたが、現在は色合いも豊富にティッシュボックスカバーや小物入れなど10種類のラインナップが加わりました。購入して下さった方々からは100円～200円と安価なため、贈り物としても喜ばれています。職員も購入し、使っています。

売り上げ金で、頑張って作ったご利用者を温泉や外食にお連れして楽しんで頂いたり、24時間テレビのイベントで作品を販売しその売り上げ金を寄贈したりしています。これからもご利用者の継続的な社会参加と活動支援に取り組んでいきたいと思っています。



## 「成長を楽しみに…」

桃李園 理学療法士  
安藤 優子



桃李園では、利用者様の力をお借りして、園芸活動に取り組んでおります。トマト・ナス・カボチャなど、様々な野菜作りを行い、収穫した野菜は調理サークルで使っていただき、利用者の皆様に提供しております。今年は、「花オクラ」という珍しい野菜を育ててみました。長年、農業に携わってきた方々も初めて目にしたという「花オクラ」。調理法は様々で、味については…ぜひ、皆さんも一度お試しください！

野菜以外にも、球根や花苗を植え、季節を感じていただけるように園内のベランダを賑わせています。野菜や花の様子が気になり、ご自分の居室とは反対側にあるベランダまで、毎朝見に来られる方もいらっしゃいます。園芸活動は、利用者同士の交流の場ともなっています。

また、その年に採れた種は、手作りの袋に入れてご家族や面会者にお配りしています。

「次は〇〇が食べたいね。」「〇〇が芽を出したね。」そんな話をしながら、ベランダを眺めるのが楽しみとなっています。



## 『心も体もリフレッシュ！』

中条愛広苑  
介護福祉士 長谷川 郁未  
介護福祉士 根本 美菜

中条愛広苑では毎月、季節に合わせた行事を行っています。「8月は夏祭り」「11月は運動会」「12月はクリスマス会でお菓子バイキング」「1月は新年会でお寿司バイキング」と、ご利用者様



が日々楽しみを持って過ごせるよう計画を立て、行事を行っています。そして10月は天候も安定し始め“食欲の秋!!”ということで「外食&足湯ツアーチ」を行いました。当施設から車で20分程の所に車いすの方でも利用できる足湯の施設があり、まずはそこでリフレッシュ！ご利用者様からは「気持ちいい～」「温かいねえ」と笑顔が見られました。リフレッシュした後はご飯

を食べに。ご利用者様一人一人が自分で食べたいものを選び普段小食な方もペロリと全部召し上がってきました。こうして気分転換を図ることによってご利用者様の笑顔が増え、施設での生活が楽しくなるよう私たちは日々努力しています。





ひ  
ん  
な

の  
広  
場

## 清流苑



個々の趣味活動を生かした合作です。集中して一枚一枚貼られた貼り絵の舞子さんは圧巻です！ 素敵な習字を添えて、エレベータを降りたらお出迎え☆ 3階へようこそいらっしゃいました！

## 高田の郷

環境美化委員会では施設内外の美化に取り組んでいます。今回は利用者の皆様にご協力頂き、玄関飾りを一新。郷土のシンボルをモチーフにした貼り絵と、丸めた紙を貼ったメッセージで、今日も皆様をお迎えします。



## 千歳園

十五夜に月見団子!! 利用者様も昔はお団子を作って、ススキを供えて、月にお供えをしたなど懐かしくお話をされていました。「穀物の収穫に感謝」するためだったようです。こういった風習は大切にしていきたいものです。



## 桃李園

通所リハビリテーションに通われている利用者様の作品です。毎月ご自身で考え、利き手である右手が不自由となりながらも、左手だけで一字一文字丁寧に書いてくださいました。



## 編集後記

皆様のご協力により無事に「老健にいがた」第43号を発刊することができました。原稿依頼に際して快くご協力を頂きました皆様に厚く御礼を申し上げます。

今回も広報委員一同が皆様の興味・関心を引くものをと意見を出し合い作り上げました。

来年度は、介護報酬と診療報酬の同時改定となります。めまぐるしく変化していく社会の中で老健としての役割をしっかりと担えるように、老健で働く職員の一人として力になれるように頑張っていきたいと思います。

(広報委員一同)

## 関川愛広苑

通所リハビリでは、「季節を感じる作品作り」をテーマに正面玄関前に作品を飾っています。ご利用者様の手元で作った小さな作品が色々な手が重なり大作になります。毎月変わる作品がご利用者様、ご家族様、職員にとってもとても楽しみです。



## 第二にいがた園



ごみと思って捨てているトイレットペーパーの芯で利用者様と協力してクリスマスツリーを作りました。芯がかたく苦戦する場面や細かい作業も皆さん頑張っていました。



## てらどまり

この可愛いクマとカエルのお守りは、ご利用者が地域の人達の安全や健康を願って作っているものです。施設に交流に来てくれた小・中学校にご利用者が直接届け、大切に使われ地域の子供たちに喜ばれています。



## 中条愛広苑

ご利用者様が描かれた絵画を基に、利用者様と一緒に、秋をイメージして貼り絵を作成しました。特に、噴水の部分は、ビニール紐を裂いて、立体制的に表現しました。



## 新潟県介護老人保健施設協会広報誌

### 「老健にいがた」第43号

編集・発行 新潟県介護老人保健施設協会広報委員会  
 〒959-2805 新潟県胎内市下館字大開1522  
 介護老人保健施設やまぼうし内  
 TEL (0254) 47-3303  
 FAX (0254) 47-3370  
 URL <http://niigata-rouken.org/>  
 印刷 野崎印刷株式会社